

# 平成30年度地域福祉計画推進協議会 議事要旨

<日 時>平成30年7月30日(月) 13時30分～15時00分

<場 所>和歌山市あいあいセンター福祉交流館3階会議室第3

## 1 開会

### ・福祉局長挨拶

今年度と来年度の2年間をかけ、基礎調査を行い、各地域での会議等を開催しながら、第4次計画を平成32年の3月に策定する予定として、策定作業を進める見通し。

地域福祉計画は皆様方もご存知のように、地域住民同士が思いやり、助け合い、支え合って、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指す計画である。

### ・会長挨拶

第3次和歌山市地域福祉計画の進捗管理がこの協議会の目的の一つ目。

二つ目は第4次計画をどういう風に変えていこうかということ、委員の皆様方のご見識、ご立場から、活発なご議論をいただきたい。

## 2 議事

### (1) 第3次和歌山市地域福祉計画の進行管理について

#### <事務局>

#### ・計画策定後の経過及び実施プランについて

##### ※実施プラン

《プログラムA》地域での学習や話しあいの推進

《プログラムB》災害時に支援が必要な人を支える取り組み

《プログラムC》生活困窮者への支援の推進

《プログラムD》身近な相談窓口とネットワークの充実

《プログラムE》協働事業の担い手の養成

《プログラムF》担い手や活動を支える体制の充実

### (2) 第4次和歌山市地域福祉計画の策定について

#### <事務局>

#### ・地域福祉をとりまく現状について

- 【資料 2－1】 地域福祉計画について
- 【資料 2－2】 和歌山市の状況（統計データ）
- 【資料 2－3】 和歌山市の状況（アンケートデータ）

<議長>

資料 1－3、地域住民のふれあい活動に満足している市民の割合が、平成 29 年度でかなり落ちている。

<事務局>

調査対象が和歌山市に居住する満 18 歳以上の男女を等間隔無作為抽出なので、年度ごとに答える人が変わる。そういった調査のところも原因としてあるのではないかと思われる。確かなところは分からないのが正直なところ。今後色々な調査をやる中で分かっていけばと思っている。

<委員>

資料 2－2 の 13 ページの家庭内暴力、DV の相談状況というのが、平成 28 年度から平成 29 年度で倍以上になっている。

<男女共生推進課長>

こども総合支援センターの方でかなり数字が上がっている。

子供を巻き込む暴力という手法で、件数をカウントしているので今回このように増えた。

<議長>

面前 DV のケースが今までは入ってなかったけれども入ったという理解で。次の年度とかに捕捉する時には、数値等をきちんとわかるように出していきたい。

<事務局>

・今後の取り組みについて

- 【資料 3－1】 第 4 次和歌山市地域福祉計画策定に向けて
- 【資料 3－2】 アンケート調査（案）について
- 【資料 3－3】 （仮称）地域福祉市民会議の開催内容について
- 【資料 3－4】 福祉施設ヒアリング（事前アンケート案）

<議長>

大きな変更点として、福祉の利用者の方に新たにアンケートの調査をしたい。資料 3－3 の各地域の会議を、大まかに和歌山（市）で 10 ブロックに分けら

れている地区単位で、今回実施をさせていただきたい。

<委員>

(婦人会は) 範囲としては2000人近くある。18団体の会長だけの答えでいいのか。

<事務局>

たくさん回答いただいた方がいいものができると思うので、また相談させてもらいたいと思う。

<委員>

質問される時に返答される人に分かりやすいような設問にさせていただきたい。

<議長>

地区の懇談会は、前回「絆づくり交流会」という名前。タイトル案を委員の皆様からご意見をいただきたい。

議会としては事務局の方に任せてよろしいか。

「分かりやすいタイトルで」ということ(意見)があったので、活かしていただきたい。

<委員>

募集人員は、上限どれだけか。

<事務局>

前回と同じくらい、できるだけ多く参加していただけるように会場設定など考えていきたいと思っている。

<議長>

委員の皆様方お誘い合わせの上、是非来ていただければ、皆さん誘っていただければと思う。

(3) その他

<委員>

児童虐待について皆さん意見が出ているが、市民の通報が義務化された結果、一般市民からの通報は増えているか。

<こども総合支援センター長>

一番多いのは教育機関、保育所などの関連団体。一般市民の方の通報についても、感覚的には年々増えていると感じている。

<委員>

資料1-4の災害時の要援護者の名簿の推進というところ、「より地域の共助を促すため、自治会へ提供している名簿を単位自治会まで周知されるよう検討する。」と書いている。その確認と、市民ごとに避難手段を決めておく、所謂個別計画の策定も今後の方向性として盛り込む必要があるのではないか。

<高齢者・地域福祉課長>

名簿は連合会には下ろさせてもらっている。単位までいければいいとは思っているが、単位の会長が毎年変わるなど色々な理由で難しく、実際にそこまでは進んでいない。

個別計画は、何千人という登録者名簿の人数、それに対しての支援者の人数、実際行動できる範囲の限定などから、どこまでどう進めていけばというのはまだ手付かずの状態。

<事務局>

特になし

### 3 閉会